

■令和3年9月（次）定例記者会見内容

日 時 令和3年8月26日（木）午前11時～正午
場 所 市役所本庁舎第1委員会室
出席者 ○市長、総務部長、企画部長、健康福祉部長、教育次長（学）、
危機管理課長、企画調整課長、子育て支援課長、健康課長、
学校教育課長、市長公室長
○酒田記者クラブ7社（朝日新聞、河北新報、山形新聞、荘内日報、
NHK、YBC、SAY）
コミュニティ新聞社（記者クラブの承認により出席）

■市長発表事項

【新型コロナワクチン接種体制について】

市長／本市のワクチンの接種体制について、少しお話をさせていただきたい。
と申しますのも、どうも本市のワクチンの接種体制が他と比べて、ちょっと遅いんじゃないかとかですね、いろいろ市民の声が寄せられております。

実態について、詳細に説明する場ではなかなかなくて、今日この記者会見の場で皆さんにお話できればいいかなと、そのように思って、今日、題材として挙げさせていただいたところでございました。

ちょっと資料が多くてですね、それを見ながらということになりますけれども、よろしくお話ししたいと思います。

ワクチン接種の話の前に、新型コロナの感染者、この庄内地域でも急増しておりますで大変な状況になっております。後程、またお話しさせていただきますが、今日発表になる感染者の数なども踏まえましてですね、今日の資料にもついてるんですけども、中学校を、臨時休校措置にする。

それから、児童センターや子育て支援センター等の臨時休館の話などもですね、後程また資料でお話しさせていただきます。

そのような状況で、感染も非常に拡大をしてきて、この地域も首都圏と同じように予断を許さないような状況になりつつあるのかなということで、警戒を強めているところでございます。

そういった中で、とりわけ、まずは、新型コロナウイルスワクチンの接種をどんどん急がなければならないという中で、昨日も、県庁で緊急市町村長会議っていうのがありましたけれども、私どもの副市長も出席をして、そのワクチン供給体制について発言をさせていただいているところなんですけど、酒田市にあってはですね、やはりワクチンの供給体制がどうも遅くなって、予定していたようなスピード感で接種ができないという状況にございます。そのことを少し、データも踏まえながら、お話をしたいなと思っております。

本市では、8月から、1日最大2、250人の方々に接種できる集団接種の体制を、医師会や日本海総合病院、それから歯科医師会、薬剤師会の協力を得ながら、構築をし

てきております。

ただ、必要なワクチン量が届かないために、集団接種、それから、かかりつけの先生方をお願いをしております個別接種ともに、大幅にその枠を制限しているというのが現状でございます。

お手元に資料、A3版の一番大きいカラーの資料があるかと思います。新型コロナウイルスワクチン接種体制について、本市を取り巻くワクチンの現状についてというサブタイトルがついておりますけれども、これをご覧いただきたいと思います。

一番左上1. ワクチン割当ての国の方針等についてでありますけれども、クールについてはお分かりのように2週間単位で区切っているんですけども、参考資料の2ページの下段を見ていただきたいなと思っておりますが、13クール、14クール、15クール、こういった手順でワクチンが配送されるという、そういうルール、これは国が定めたルールになっております。

13クールにつきましては、実際に配送されるのは、8月30日から9月12日というふうに書いてありますけど、ずれがあるんですね。配分が決まってそして実際に配送されるまで、タイムラグがあるということをまず頭の中に入れておいただければなと思います。

こうした流れの中で、10月の上旬までに、各都道府県で12歳以上の人口の8割に、2回接種するために必要なワクチン量を基本枠として配分すると、これが国の方針でございます。で、県が所管している市町村への割り当て量は、都道府県の裁量で決めてくださいねというのが国が定めたルールでございます。

国では、必要なワクチン量は必ず配分しますと、そして各市町村に割り当てて、それでもワクチンが不足する可能性が高い場合は、14クールと15クールの調整枠で対応を検討するといった方針を示しております。

14クールと15クールの調整枠というのは、14の2、15の2ということで、この参考資料2ページの表を見ていただければ分かるんですが、3番目と5番目のところに、14の2クール、15の2クールとありますけれども、足りなければ調整しますよというのが国の言い分であります。配送予定日というのもそこに記載されてますけれども、これを少し頭に入れていただければなと思っております。14の2、15の2は調整枠として、別枠で配分される、そういう部分だということでご理解いただければと思います。

資料に記載している内容につきましては、参考資料7ページからということで国の通知を抜粋したものを載せております。関係のするところには、下線を引いておりますので、後程ご覧をいただきたいなと思っております。

それを受けまして、先ほどのA3の資料にもう1回戻りますけれども、2. 県の配分計画と配分方法等ということでありますけれども、これが示されました。

参考資料ページの1ページ、これをちょっとまた見ていただきたいと思っておりますけれども、これでいきますとですね、県では、国から示されましたワクチンを、接種対象人口の8割が2回接種できるよう各クールにおいて、対象人口に対する充足率が160%未

満、これは8割の方々が2回接種とするということで160%と便宜上ここそういう数値を使ってるようですけれども、要するに、80%に満たない市町村については、対象人口の比率に応じて配分数を決定しておりますっていうふうな考え方を取っております。

この参考資料の1ページの方の表の見方ですけれども、これは配分される箱数が書いてあるんですね。例えば、13クール of 配分箱数、山形市は、9箱だと。バイアル（注射剤を入れる容器）が195個入っているのが1箱ですけれども、それが9個、山形市には配りますよと。

13クールっていうのは、9月12日までに配ります。先ほどの表を見ていただければ分かるかと思えますけれども、14クールは9月26日まで、15クールは10月10日までっていうことで、配分されるワクチンの量を示しています。

空欄のところは、配送が無いのかということなんですけど、これは要するに、8割が2回接種、もう終わってるという、だから配りませんよということに理解いただきたいと思えます。

従いまして、私どもは、やっぱりこの山形市ってのは人口もあれだけ多いので、我々と同じくらい遅くなるのかなと思ったら、意外と早く8割に接種できる、そういう供給体制を組んできているということになります。

米沢、鶴岡、酒田、これはですねやっぱり15クールまでは、配分が計画されているが、これでも足りないということになるものですから、いずれにしても、接種の速度が遅くなるということが、自ずと出てまいります。

この辺を見ていただければと思うんですね、山形とか村山とか、尾花沢、こういったところは非常に早く、同じ市部でも進んでいるように見て取れます。それから、町村部も比較的スムーズに進んでるなというのが見て取れるかなと思えます。

県によれば、10月上旬までに、15クールまでにとということになりますけれども、基本枠に配分されるワクチンの割合は、県全体で78.5%ですよと、このように言っております。しかしながら、本市の場合は、この15クールまでの配分量から推計しても、68%で留まる見込みであります。鶴岡も同じような状況かなということでもあります。

本市へのワクチン配分は、県平均よりも10%以上も少ないということが現実的に把握できるわけございまして、この配分計画の1ページ（参考資料）の表を見て、我々もはっきり確認できたという状況でございます。

山形市などは先ほど言いましたけども9月上旬には8割のワクチンが配分されますけれども、本市で言いますと、先ほど申し上げました14の2クールだとか15の2クールと言われるその調整枠で、相当数追加配分がなければ、10月上旬になっても、7割に満たない68%って先ほど申し上げましたけども、そのくらいのワクチンしか接種されない状況になっていますよということを申し上げたい訳であります。

県内の自治体間のワクチンの配分量と、配送時期には余りにも大きなばらつきが生じているのではないかと、このようなことで、県内の自治体ごとの接種スピードの方にも大きな差が生じていますよねということでもあります。

こうした実態は、事務方で県にも伝えておりますし、昨日の緊急市町村長会議でも、副市長から発言をしていただいたところでございます。

併せて、明日ですかね、新型コロナ克服創造山形県民会議という会議が、県庁で開かれるようでありまして、その場もですね県市長会の代表ということで、南陽の白岩市長が参加されるってことなので、同じようなことを是非発言をしていただきたいということで、我々市長会の方には申し入れをしているところでございます。

そうした中で、最初のA3の資料をまたご覧いただきたいと思っておりますけれども、3番目のですね、本市に配分されるワクチンの見通し、というところをまたご覧をいただきたいと思っております。

ワクチンは、4月、5月にやりました医療従事者分は、実は市町村を通さずに県へ配分されております。それから、県庁でも接種会場を設けてやっていますね、県が独自に大規模接種会場を設置したり、或いは企業によります職域の接種、これなども実施されておりますので、市町村が正確な必要なワクチン量を把握するというのは実は大変難しいということで、そういう課題もあるということは我々も承知はしているところでございます。

どうしても、山形市あたりが、県庁の接種会場だとか、或いは大規模で接種会場を設けていますので、接種が進むということは十分理解できる場所ではありますが、我々はなかなかそういう場、特に県庁まで出向いて接種をするのはなかなかハードルが高いですから、そういう面ではスピード感が鈍る。

だからこそ、我々が設置した集団接種に、一定程度配慮されたワクチン量があれば、どんどん接種を進めることができるのですが、今、酒田市が接種速度が遅いっていうのはやっぱりワクチン量が、そこまで供給されていないということに起因するのかなと思っております。

本市の必要な市民の方、8割に接種をするという前提で試算したところ、先程の参考資料の1ページで、13クール、14クール、15クールの配分される箱の量が、3、5、5という形で酒田市なっておりますけれども、これを見込んだとしても、19箱から22箱程度、対象の8割に接種するために不足をしているという状況にございます。

19箱とか、22箱の計算根拠は、そこに記しておりますけれども、接種率を8割と想定した場合は、19から22箱程度の不足が見込まれている。これが現状での判断でございます。

14の2、15の2のその調整枠で幾ら来るかまだわからないような状況なので、このようなことを申し上げる訳ですが、出来ればそれに見合う配分を是非いただければなという思いで、昨日も県の方に、ご配慮をお願いをしたいという要請をさせていただいたところでございました。

次にですね、このA3の資料の右側の方に移ります。4番目のところでありまして、ワクチン配分不足に伴う本市接種計画への影響等ということで、簡潔に記載をさせていただいておりますけれども、集団接種につきましては、現時点で、接種を開始いたしました5月15日から、今後を想定している10月3日までの間で、本市の接種対

象者の8割に接種するための回数は、14万8,800回の約24%に相当する3万5,300回分の接種枠を、予約受け付けを中止している、或いはその予約を少し減少させているというそういう状況でございます。24%ワクチンが足りなくて、打てるよと言って予定した枠なんですけども、減らしているというのが、現状でございます。

参考資料の4ページ、5ページをちょっとご覧をいただきたいと思います。

ここには、特に8月から10月、11月までっていう予定を載せているところですけども、灰色着色のところ、本来ワクチンがあれば、この灰色着色で中止ってなってるところでは接種できたんですね。だけど、ワクチンが無いもんですからこれを止めざるを得ないという状況でございます。

それから、予約できてるところでもですね、予定枠を減らして、そのワクチン量に見合った予定枠しか取れないという状況で、接種計画を組まざるを得ない状況に今あるということでございます。ですから、灰色で染められてるところがどんどん接種可能になれば、ワクチンがあって接種できればですね、もっともっと早く市民の皆さんには接種できる、このように我々はそういう思惑で、この接種会場とそれから接種日を作ったわけですけども、現状ワクチンが来ないもんですから中止せざるを得ない状況にありますというところを、この表から見ていただければなど、こんな思いを持っております。

集団接種の会場、これもですね、中止すれば、簡単に済むかということではなくて、実はここに従事する医療従事者だとか、それから集団接種会場の運営スタッフ、これはもう全てキャンセルをせざるを得ないと、そういう状況で、接種できない市民だけでなく接種業務に携わっていただけるような関係機関の皆さんにも大きなご迷惑、影響をお掛けしているという現状でございます。

今の話は、集団接種について今申し上げましたけれども、個別接種、私どもはかかりつけ医で、65歳以上の方、基礎疾患のある方ということでやらせていただきましたし、今も基礎疾患のある方を中心に、かかりつけ医の協力医療機関の皆さんから個別接種という形で、接種をさせていただいておりますけれども、今後、59歳以下の方々に接種していただければと思ってはいたんですけれども、59歳以下で基礎疾患のない方の1回目の接種予約は、こういう状況なので、キャンセルをしていただくことでお願いをしております。

各個別の医療機関へはこれまでの接種実績等に基づいて、ワクチンの配送上限枠をこちらで設定させていただいて、かかりつけ医の皆さんから、接種していただいております。

従って、上限枠がございますので、どんどん打てると思って予約を受け付けているお医者さんも結構いたんですけども、お医者さんからは、この上限枠の範囲内で接種していただくっていうことで、ある程度その予約のキャンセル、それもやっていかざるを得ないというような状況で、個別接種でもかなり影響が出ているというのが実態でございます。

なお、ご存知の通り、この個別接種につきましてはですね、実は一定程度酒田市以外の方々も接種してるわけですね。お医者さんには、例えば遊佐町とか、三川町だとか、

庄内町だとか、鶴岡市の皆さんも、患者としていらっしゃる訳で、まして日本海総合病院でもやっていますから、日本海総合病院にも、庄内一円から通ってきてる、ひょっとしたら秋田から来てる方もいるかもしれませんが、そういった方々も接種している。

その接種するワクチンは、実は酒田市に配分されたワクチンを使うことになっているので、そういう面で、実際は2,000回程度、1,000人分程度じゃないかなとこれまでの実績からすると推量していますけれども、その分、酒田市民に対してやっぱり打てなくなってしまうと、そういう実態もあるということでございます。

そういったことで、どうしてもワクチンが確保できない限り、体制はいくら整えても、市民の皆さんに接種はできないんだよということを、市民の皆さんからご理解いただきたいし、我々としても、県に対してはですね、そういう実態を見越した形で、これから調整枠も含めて、十分なワクチン量の供給をお願いしたいなという思いでいるところでございます。

そんな状況を踏まえてですね、先ほどのA3版の資料の5番目、当面の対応等についてということになりますけれども、当面の対応、集団接種については、先ほども資料でいろいろお話ししましたが、広報等を通じてですね、予約枠を少なくして実施することで進めていきたいなど、このように考えております。

8月19日から予約の受付を開始した50歳以上の方を対象とする集団接種、これも翌日の20日の12時30分には、予定枠の4,000人にすでに達しております。

それから、9月19日の集団接種でございますけれども、これは、現在のワクチン在庫状況等を踏まえて、予約枠を2,000程度で実施する方向で、調整をしております。このことは、9月1日号の広報で、皆様にお知らせをする予定でありますが、2,000人程度の予約枠しかありませんので、また殺到するんですよね、そういう意味では。9月の4日か5日頃から予約受け付けをできればなということで、今、段取りを組んでおりますけれども、詳細につきましては、9月1日号の広報で確定的な日時をお知らせしたいなと思います。

それから、個別接種につきましても、引き続き各医院に対しては、上限を設けたワクチン接種を継続していただくようお願いをしているところでございます。

先ほど、個別接種、かかりつけ医によるその接種については、他の市町村の方も接種してるんだよっていう話をさせていただきましたけれども、このA3の資料の6番目、個別接種の住所地特例に伴うワクチンの流出ということで、ちょっと項目を設けさせていただいております。この新型コロナウイルスのワクチン接種は、原則として居住地の市町村において接種されることに、そういうことになってるんですけども、かかりつけ医で接種する場合は居住地外の接種の特例が、これは制度として認められているので、我々としてはですね、お医者さんに、他の市町村の方には打たないでくださいとはちょっと言えないわけですね。

しかしながら、先程申し上げました通り、そういった方々に接種するワクチンっていうのはやはり酒田市に配分されたワクチンを使うという、そこはそういう仕組みになっているものですから、ここは何とも致し方がないという状況がでございます。

国から県に対しては、このような居住地外接種の状況も十分に把握、考慮して、配分のばらつきを是正するように依頼されております。しかしながら、実は山形県ではその調整は行われていないというのが実態でございます。従って、先程資料について見たようにですね市町村ごとで、非常にばらつきが生じてるっていうのは、これからも見て取れるんじゃないかなと思っております。先ほども本市民のために配分されたワクチンがどのくらい他市町村の住民の皆さんに行ってるのかということでしたけれども、約2,000回分、1,000人分ですよね、1人2回打つとすれば、約2,000回分は、流出しているのではないかなということで、推定をしているところでございます。

それから、最後ということですが、先ほどのまたA3の資料にお戻りいただきたいと思いますが7番目、接種終了の見通しということでございます。とりわけ、黄色い囲みの中をご覧いただきたいなと思います。

今後、8割の方に接種するための接種回数を約5万3,775回と見込んでおります。また、11月中旬までに、集団接種と個別接種で実施可能な回数は約6万6,900回を見込んでおります。この5万3,775回から、現在本市が在庫で持っている1万3,674回と、それから、今後の配送量が決定しております1万5,210回分を差し引いた2万4,891回分、これは約22箱のワクチンになるんですけどそれを配分いただければ、今の体制でいくと、11月中旬までには、8割の方に接種が完了できる見通しと、我々は組んでおります。

県からは、国の方針等に基づいて、14クールが5箱、15クールが5箱なんですけども、その間にある調整枠先ほど14の2、15の2という形で、お話をしましたけどこの調整枠で、先ほど今必要だと言った22箱以上のワクチンを確実に確保していただいて配分いただければ、11月中旬ぐらいまでには接種可能になるなど、そういう見通しを立てているところでございます。

現在、非常に感染拡大が進んでおります。ワクチンを接種した方も感染はしてるわけですけども、ワクチン接種によって重症化しないという状況が見て取れるようです。そして、昨日私ども対策本部でいろいろ議論をした際にですね、今酒田で、感染している人の現状を少し分析したんですが、基本的に60歳以上の人っていないんですね。そういう実態から見ても、やはりワクチンは、12歳以上の方々になるべく早く打っておくことで、その安心感にも繋がりますし、重症化しないっていう、そういう担保するのは非常にありがたいというかですね、皆さん安心して生活ができるっていうことに繋がるのではないかなと、こんなように思っております。

従って、このワクチンの接種をなるべく早く進めるということが、今、本市にとっての喫緊の課題なので、それに向けて、山形県に対しては、必要なワクチンの配分について、特段のご配慮をお願いしたいということで、今、県サイドには、申し入れをさせていただいているところでございます。

とりわけ12歳以上の方々ですよね、ぽつぽつと感染者が出てきております。中学校の臨時休校等もそういった流れの中から出てくる訳でありますけれども、私どもとするとですね、実は10月以降になりますと通常のインフルエンザの接種が本来入ってくる

わけですよ。

インフルエンザのワクチン接種については、コロナワクチン接種から2週間くらい開けるんだという、そういうルールのございますので、そういう意味でも、早めにコロナワクチンを接種し終えたいというのが、我々の実は思いのございまして、そういう意味でも、是非とも新型コロナワクチンについては、必要量をなるべく早く配分をしていただければと、このように思っております。

実は、私も又聞きであまり詳しい内容を分からないんですけども、福島県でワクチンバンクみたいなものを設けて、足りないところに小分けをしてでも配分したりをするという調整を県としてやられているようであります。

従いまして、そういうことも本来やってもらえれば、もうちょっとこのばらつきは無かったのではないかなという気はするんですけど、山形県としてはそういう体制にはなっていないので、そこは致し方ないかな、このような実態になってやむを得ないのかなということも分かりつつではありますが、なお、今後の展開としては、集団接種体制をせつかく組んで、国は10月云々という話も言ってますけども、11月中にはきちっと皆さんに接種できる体制を組んでおりますので、後はワクチン量さえ、しっかりと配分してもらえれば、その体制に乗せていくことができるということで、県の方に申し入れをさせていただいているという状況のございます。

ちょっと長くなって大変恐縮なんですけれども、ワクチンがなかなか供給されていないということをご理解いただくために、今日記者会見の場を借りて、皆さんにお話をさせていただきます。

このことについては、9月1日号の広報で、一定程度特集ページを設けまして、市民の皆さんにもしっかりと理解をいただくために、お知らせをしていきたいなど、そういう思いでいるところのございます。そういう準備をしているところのございます。私からは以上のございます。

記者／最初の市町村間のその配分の差というのは、どうしてそうなったのですか。

市長／我々、必要量は常に県に対して要望を出してる訳です。それに対して、どういう基準で判断されたか分かりませんが、これだけだということを受けざるを得ないと、受け身なわけですよ。なので、やっぱりどうしても、それが何故そういう根拠になったのかというのまでは分からない。

健康課長／少しだけ補足させていただきますと、参考資料の2ページをご覧くださいと存じます。2ページの上の表に、本市にこれまで配分いただいたワクチンの経過を載せてございます。市長申し上げた通り、正式なところは国、県のお考えということになります。例えば、薄い黄色い部分の高齢者分というところに関しましては、国が高齢者に打てる100%出る分のワクチンを配布するというので、ここは市町村の希望をとる形はとってますが、上限いっぱい全ての市町村に配られたというふうな理解でおります。

ご案内の通り、7月以降一気にワクチンの供給量が低くなった訳ですけど、ここで言いますと、9クールから12クールまでについては、本市では80箱のワクチンを要求、

要望させていただきましたが、実際は27箱しかこの期間入らなかったということです。34%というところになりますので、差がついたとすればこの辺でなのかなというふうに思っております。

ただ、この間の国の方でも、VRSの接種実績に基づいて、在庫の多い市町村のワクチン供給量を調整するとかでいろんな方針が出されましたので、それを踏まえて、国県が途中経過として、どのような配分をしたのかというのは、正直我々は分かりかねるところでございますが、結果としては、違いが出るとすればこの辺なのかなというふうに捉えております。

記者／何らかの形で、何故少なかったのか検証するなどの予定はあるのでしょうか。

市長／昨日ですね、緊急市町村長会議で話をさせていただいて、明日また、県の方の、先ほど申し上げましたけれども、新型コロナ克服創造山形県民会議という、医師会とかみんな入ってるんだと思いますけど、その場でも、代表である南陽市長から発言してもらおうとは思ってますけれども、それ以外の打つ手は、基本的には無いんですよ。

やっぱり、国に申してもですね、8割に相当する方々に接種できる量はもう県に配分してるんだということと言われるばっかりなので、後、やっぱり県がちゃんときめ細やかな調整をしてもらえればですね、一定程度の期間内に押しなべて、県全域で8割くらいまでは、接種できる体制が整うんだろうなと思うんですけど、先ほどの資料にもありました通り、実態は市町村ごとで分解してみれば、全然、温度差があるというふうな理解をしています。このことは、問い詰めようにも検証しようにも検証できない。なかなか犯人探しすることもできないですからね。なので、今後調整枠の中で、県から一定程度遅れている特に市部に対しては配慮していただいて、そんなに県内全体で温度差が出ないような体制にしてもらえれば有難いかなと。その程度かなと考えているところです。

記者／供給が滞ったことで、1回目打ったけど、2回目は打てなかった方が発生してるんですか。

市長／それは基本的にはないですね。私どもは1回目の予約と同時に2回目をちゃんとセットで予約取ってますので、個人的な事情で来れないっていうのはあるかもしれませんが、基本的には、1回目の予約を取れば2回目も取れてるという前提でやっています。

記者／もう一つなんですけど、公共施設の臨時休館の話。逆にやってる施設というのはあるのですか。

市長／今のところですね、例えばコミュニティセンターとか、市民会館とかは、通常通り、感染に注意をして、オープンをさせている。体育施設もそうです。閉ざすという施設は、そんなに広げてはいないです。

記者／学校の件なんですけども、どうも新人戦とかの時期で、スポーツ関係でのクラスターが出てるところがあって、この対応とかは考えているのでしょうか。

教育次長(学)／部活動については、実はお盆の関係で帰省等の影響が出てくるだろうというふうなのは、やはり見えていましたので、8月の18日以降は、自校だけの活動にしてくださいと、いうふうな要望を中学校についてはしているところでございます。

なお、スポーツ少年団についても同様な要請をしているところでございます。

記者／ワクチン接種の配分に関連して、ご質問なんですけども、かなり少ない人数で酒田市もいろいろ事務作業を回されてると思うんですけども、明確に何をもってしてそれを言うかという基準はちょっと難しいところであるんですけど、VRSは、それぞれで入力できてるという認識でよろしいでしょうか。

市長／確かに当初は、ちょっと遅れがあったということで伺っていましたが、それを急ぐことで正確なデータが出るという理解をしておったんですけど、今は順調に入ってます。今は遅れはないと思います。

記者／話が飛んで申し訳ないんですけど、別個の質問で、千葉県で、妊娠中の方がコロナに罹患されて、要は、入院先が見つからずっていうことでちょっと痛ましい事態もありまして、一方で庄内、目を転じてみると、まだ余裕あるとはいえ、日本海総合病院の病床も68%、60%を超えて埋まってきている。例えば、鶴岡の庄内病院さんなんかは、もう埋まってんだという話も鶴岡の方でありました。

そもそもなんですけど、ちょっとホームページでは確認できなかったんですけど、「その他」などという表記に入ってるのかどうかという確認で、妊娠されてる方は、酒田市では、個別の優先接種の対象に入っているのでしょうか。

市長／当初は入ってなかったんですね。だから、今こういう状況にあるので、医師会の皆さん、医療機関とも調整をしてる最中なんですけども、是非そういう考え方で、優先接種の対象で安心して、産科の医療機関でワクチン接種していただくようなことを今調整をしているところでございます。行うとまでは、まだ決まってはいないんですが。

記者／産科の病院での個別接種を検討しているということによろしいでしょうか。

市長／はい。今酒田市でいうと2か所、鶴岡市どうしても産科が多いんで、鶴岡市だと4か所。その医療機関で妊婦さんへの優先的なワクチン接種について今調整をしているという状況でございます。

記者／酒田の配分のワクチンと認識してよいか。

市長／いや、多分、鶴岡市の産科だったら鶴岡のワクチンとなる。結局、酒田の人も結構鶴岡の産科にかかっている方結構いらっしゃる。本市は、個別で一つ、後は日本海総合病院、2つの医療機関しかない、産科関係は。鶴岡が多いので鶴岡に行っている方々も結構いらっしゃるんで、鶴岡の医院で打つ分は鶴岡市のワクチンをとということになると思います。

健康課長／市長が申し上げた通りですが、今現在、個別の医療機関様の方と調整しておいて、それが整い次第、対象となります妊婦さんに、全て個別通知でご案内を差し上げたいと思っておりますので、来週にはそういった通知を発送させていただきたいなと思っておりますが、今ちょっと個別の医療機関様でまだ確認と言いますか、同意のようなものが取れてないところもございまして、それがまともな次第、ご案内したいなと思っております。

記者／またちょっと別のお話で恐縮なんですけど、学校関係についてなんですけど、おそらく県の教育委員会の判断でやることにはなると思うんですが、市立の小中学校につ

いて、他の都道府県、市町村を見ると、東北は始業式が早いのでその限りじゃないんですけど、その始業式後ろ倒しにしたり、事実上休校を行ったりして、やはり夏休み明けとだと、しばらく会ってなかった子達が会って、同じ空間で過ごす、デルタ株だとこれまでの対策では防ぎ切れないっていうことも何となくちょっと分かってきてるので、市独自に、何かその一斉休校じゃないですけど、小中学校何か措置とかそういうお考えはどうでしょうか。

市長／ちょっと教育委員会から補足してもらいますけど、今の現段階では、そこまではする必要がないのではないかなという判断をしております。と言いますのも、ここ一年半ほど経験する中で、学校の中での密にならないとか、マスクをするとかです、徹底してる環境なので、今の状況であれば、そこまでやる必要はなくて、むしろ安全なのかなという思いでいるところです。

ただ、今後ですね小学校、中学校が、ある意味、感染拡大の原因になってるということの状況が掴めるようになればですね、そこは一斉休校ということについては、躊躇なく判断すべき、そういう事態も十分あり得ると理解をしていますし、そういう事態を想定してのGIGAスクールという一人一パソコンによる教育指導の体制整備だったはずなので、まさにそれを生かすん事態だろうと思っておりますが、現時点ではですね、そこまで踏み切る状況ではないという理解をしております。

教育次長(学)／現段階では学校で感染コントロールできているかなというふうに捉えています。全校で一斉休校については今のところは考えていない。

特に小学校の場合には、例えば保護者の方がお休みできないというような状態だと、小学校を休校すると今度学童の方に行く訳ですけども、実は密になりやすいのは、学童というようなこともあり、小学校、中学校については現段階では休校は考えていません。

特にGIGAスクールの話も今出てきましたけども、こういったことも想定しながら、1学期の段階で、リモートで実際に家庭の方で授業ができる体制を整えていますので、必要な時には、躊躇なくというふうなことで考えているところでございます。

記者／今日、朝のニュースで、モデルナ社製のワクチンに異物混入というのがありましたけども、酒田市さんの方だと、ファイザー社製を使ってるということなんですが、けれども、こういうワクチン接種を早く進めて行こうっていうこの流れの中で、このような事態が起きてしまうことについて、市長としての受止めをお伺いしたいんですけれども。

市長／ちょっと私も事実確認してないので、報道でそのことを知っただけなので、どの程度の量が混入したのか実態がちょっと私今理解してないので、何とも言えませんけれども、おそらく職域接種で使うワクチンがモデルナ社製だと思っています。酒田市の企業でも、それを前提に今準備を進めてるところもありますので、そこに影響が出ないやいなと、非常に心理的なものがやっぱり作用しますよね。なので、その辺を心配しておりますけれども、モデルナは危険だとかっていう判断をするには、まだまだちょっと早計なんじゃないかなっていう感じがします。

それよりも、とにかく、一人でも多くの方に接種していただいて、重症化するのを防

ぐ、そういう環境を整えることの方が重要なのかなという思いで今いるところです。

記者／現時点で、今、職域接種の話が出ましたけれども、ちょっと遅れが出たりとかする影響というのは考えられるのでしょうか。

市長／一応、2つの職域接種を希望している団体があるんですけど、そこについては、ワクチンの供給が示される日にちが示されれば、速やかに接種をする準備は整えているという話を伺っていますので、ここもやっぱり、いつ、供給されるかっていうところにかかっているんだらうなど。これは、直接国に対してということになるかと思いますので、国の決定待ちっていうか、配送決定待ち、なのではないかなとそういう理解をしております。

記者／細かい数字で恐縮なんですけど、個別接種について、どれぐらいの量を接種できているのでしょうか。

市長／参考資料の6ページをちょっとご覧いただけますでしょうか。これを見ると医療機関の数と、これ8月24日までの分が白色、それ以降は黄色になっていますけども、配送数がバイアルで書いてあります、箱じゃありませんので、これだけ配送されて接種人数については、その脇に、人数として書いてあります。

健康課長／参考資料の6ページの通りでございますけど、8月24日までの分はすでに発送済みでございますので、これは医療機関で予約した方、順次接種いただけるものと思えますし、黄色の部分は予約数量になります。

実際、ファイザー社製のワクチンは、1か月間保管が可能、約30日保管可能でございますので、配送してすぐに打つのかその週のうちに打つのか、少し時間をかけるのかというのは、各医療機関の予約の実情で若干変わりますので、少しタイムラグは生じるのかなというふうに思ってますけど、一定程度ここで言えば、最終的には約7万人という数字入ってますけど、5万人近くの方に、途中までで打たれてるのかなというふうに思っておりますが、ちょっと最終的には配送したものが全て打たれてるかというところは、この資料ではちょっと確認できないところです。

記者／ちなみに、医療機関の方で、接種希望というのでしょうか、要望っていうのはどれぐらいあったのでしょうか。

健康課長／これもすいません、手元にちょっと具体的な資料を持ってきてなかったんですが、7月時点で、個別の医療機関でかかりつけの方だけじゃなくて、かかりつけの方の家族、或いは嘱託医のような形で関わってる企業さん、そういったところも打ちたいというご希望がございまして、その時点ではワクチンの供給が潤沢に入るという見通しでございましたので、特に医療機関ごとの接種スピードのようなものを調整する予定はなく進めていただいていたんですが、今市長申し上げた通りワクチンの供給量が極端に減ったので、配送量もご覧になっていた通り、8月以降から一気に落ちてきているというような状況でございます。

記者／どれぐらいのキャンセルがあったのか。

健康課長／キャンセルの数までは、押さえてございませんでした。

市長／やっぱり、医療機関ごとにですね、ちょっと温度差があるんですね。嘱託医的な

ところをいっぱい手広くやっていると、どんどん予約を取ってた状況が見て取れずし、そういうところがないお医者さんは本当にかかりつけの方しか予約をしていないところもありましたし、なかなか難しいですね。

一応、ただ、どれだけ必要かってのは事前にアンケート調査みたいなものを取ってまして、本来はそれを潤沢に配ればよかったですけども。見て分かる通り、結構個別接種で接種してる方多いんですね。

そういう意味では、来年以降の流れを見ても、個別接種というのは非常に大切な、全部集団接種でこなすのはなかなか難しいだろうなと思ってたので、そういう面では、個別接種を引き受けてくださる医師会の先生方にも本当に協力をお願いしながらですね、できれば個別接種としてもワクチンをいっぱい供給したかったんですけども、こういう状況なので絞らざるを得ないということで大変ご迷惑おかけしてるなということで、そこは個別接種の協力医院に対しても、お詫び申し上げたいなと思っております。

記者／疾患を持ってる方とかが、キャンセルになったとかっていう身近なところで聞くんですけど、可能性としては現状はまだあり得るのか。

市長／ありえるでしょうねやっぱり。ワクチンの量が絶対的に少ないということからなると。

記者／資料の見方を教えていただきたい。参考資料の4、5ページでカタカナの㊦とか㊧とか、これはどういうふうに見るのか。

健康課長／ご案内の通り、ワクチン1回目と2回目がございますので、例えば、お尋ねの、9月4日の㊦の1つというところは、1回目が9月4日の㊦の1で実施して、2回目が、9月25日に接種するというところで、㊦の2回目という意味です。その㊦というところに関しては、カタカナ表示は土日接種日に基本使っておりまして、平日については数字表記を使っているということで、現状そのような数字を使って、他意はございません。

教育次長（学）／追加した資料について補足であります。新型コロナウイルス感染者に係る学校の対応についてということで、先ほど丸山市長からも説明ございましたけども、昨日ですけども、生徒の保護者から報告があって、その中学校、A中学校というふうにしますけど、生徒の感染が確認されております。当該の中学校につきましては、昨日25日から当面の間、臨時休校、保健所の指導のもと、25日に消毒を実施したところでございます。なお、詳細については、現在調査中というようになります。

本市では、小中学校につきましては、児童生徒のPCR検査陽性が確認され次第、速やかに学校一度休校して感染経路等の調査を行っております。このための休校というふうなことになります。

感染された方やその家族、医療従事者等に対し、差別や偏見、誹謗中傷などは絶対に行わないようお願いしたいということについてはいつもお願いしているところでございます。

■フリー質問

【飛島海底光ケーブルの敷設工事について】

記者／今現在、飛島に向けたファイバーケーブル敷設工事が行われております。年内の供用開始を目指しているということなんですが、それに対する市長の期待の声をお聞かせいただきたいと思います。

市長／年内というのはちょっと私も大丈夫かなという思いがあるんですけど、一定程度敷設するについても、作業船が必要だったり使える期間も限られますから、おそらく年内に大体終わるんだろうなとは思ってはいましたけども、具体的に竣工月日がいつかってのは確認してない。いずれにしましても、今日、新聞にも載ってましたけども、スマートアイランドで実証事業をやるんだとかですね、そういった敷設された光ケーブルを使って、これからスマートアイランドとしてのいろんな仕掛けを構築していく上ではですね、その完成ってのは非常に弾みがつく環境整備になるので、早めに環境整備をして実証実験に移れたらいいなと、そういう思いでおります。

なかなか、このタイミングでないと、飛島に光ケーブルを敷設するっていうことはできませんでしたので、そういう意味ではタイミング良く、そういう環境整備に取り組み、私どもとしては非常に期待感を持って受け止めているところであります。